みなさんおはようございます。

今日はふりかえりの塔慰霊祭にご参列いただき誠にありがとうございます。

ふりかえりの塔は、ご存知のように、74年前の8月6日朝の、晴れ渡った青空に落された、一発の原子爆弾によって亡くなられた町内の207名の皆さんに「親、兄弟の近くで安らかにお眠り下さい」と建立した慰霊碑です。

　またこの慰霊碑について37年前の読売新聞には、このようにあります。

「繁華街のロータリーの植え込みに建つふりかえりの塔、これには逃げて早く逃げてと叫ぶいとしい人の声もとだえ、後ろ髪を引かれふりかえっては転び、“火の子を浴びながら振り返る、あの日あの時……”とあって涙なしには読めませんでした。

これは、生き残った私たちの誰もが抱える重い心の傷なのです。それにしてもどの碑文もあまりにも控えめなのです。

“平和のいしずえに”とか“国に殉じ”とか、なにも語らない石碑ですが、やはり痛烈に告発していると思うのです。残虐な皆殺し兵器を絶滅しなければならないと」

この記事は、まさしく私たちの町の先人たちが、この慰霊碑建立に込めた想いを言いあらわしていると思います。

8月6日の今年の松井広島市長の平和宣言に、日本政府に対し2017年に国連で122カ国の賛成で成立した核兵器禁止条約を批准するよう促す文言が、多くの市民の声を受けて入るのではないかと、期待を込めた話もでてきており、実現すれば「核兵器のおわりの始まり」がわづかながらすすみ出すように思います。

ヒロシマの声を届けることを、あきらめぬ限りいつの日か、ふりかえりの塔の慰霊碑に込められた想いが少しづつでもかなうことを信じて、これからも私たちは、広島のこの小さな街角に建つふりかえりの塔の慰霊碑を守っていきます。

最後に、原爆で亡くなられた方々に、安らかなお眠りをお祈りし挨拶とします。

今日は、大変暑い中、みなさんありがとうございました。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2019.7.27　町内会長　小野本利明